

令和元年7月発行
発行/日置市産業建設部農地整備課

- トピック
○農業体験
○田植え体験

○花田水土里クラブ

花田水土里クラブでは、遊休農地を活用した「花田農園」を開設し、毎年多くの作物を育てています。今年はナス、ズッキーニ、オクラ、とうもろこし、トマト、きゅうり、落花生、サツマイモ、スイカなど9種類の野菜が植えられました。

農園は、花田小学校の協力のもと、花田小学校の児童の皆さんの植え付け、管理(2回)、収穫体験の場としても利用されています。

六月五日(水)の活動は、五年生五人、六年生十人と一緒に五月に植え付けたスイカの管理を行いました。まず、全員で風よけ用の袋と支柱を外します。苗が小さい間は、強風に耐えることができなかったため、苗を袋で覆い、苗を守っていました。袋がある程度成長したため、袋を取り、より太陽の光を吸収しやすくします。子どもたちは、苗を傷つけないように慎重に袋を取り支柱を片付けていました。片づけが終わったら次は、農園の周りをネットで囲う班、スイカの周りに藁を敷く班の二班に分かれて作業を行いました。

作業の合間に、地元の下津貫さんがなぜ藁を敷く必要があるのかその理由を子どもたちに尋ねまし



【活動写真①風よけを外す様子】



【活動写真②藁を敷く様子】



【活動写真③農園をネットで囲う様子】

た。子どもたちには少し難しい質問でしたが「スイカを守るため」「栄養になるから」など様々な答えが飛び交っていました。藁には、土からの病気を防ぐ機能や保水力を高める機能、雑草の植生を抑える機能があることを教わると、子どもたちは感心した様子で、なお一層、農作業に精を出しました。休憩後、トウモロコシ園の雑草を取り、この日の作業を終えました。

農業体験の中でも、子どもたちに維持・管理までを体験させるケースは珍しいと思います。作物が育つ過程を見て、収穫までどんな工程があり、どれぐらいの間がかかるかを身をもって知ることができます。手塩にかけた分、収穫を迎えたときの喜びもひとしおです。

農業体験は準備や維持・管理に多くの時間と労力を要します。活動に携わる皆さんは、収穫までの期間、農業や農業以外の仕事をしながら水やりや肥料の管理、草払い等の維持・管理を行います。仕事をしながら維持・管理作業を行うことは非常に大変です。しかし「子どもたちの喜ぶ顔が見たい」「子どもたちに地元の食材を食べしてほしい」「地元の特産を知ってほしい」など様々な思いのもと活動を続けています。

農業体験は、地元の空気に土に水に触れることができるかけがえのない体験です。今後も、活動を継続することができるよう、花田水土里クラブや学校・保育園と引き続き協力していきたいと思

【半夏生】
七十二候の第三十候。夏至から数えて十一日目。烏柄杓が生える時期にあたります。

○永吉ふるさとを守る会

空梅雨の合間、前日までの曇り空を跳ね返すように晴れた六月下旬。永吉ふるさとを守る会は、永吉小学校三十九名、花田小学校三十二名、和田小学校九名、永吉保育園十名の生徒・児童の参加のもと田植え体験を行いました。

始まりのあいさつで胸元代表から「昔は田植え休みと収穫休みがそれぞれ一週間ずつあり、自分の家の田んぼだけでなく、隣の家の田んぼの手伝いに行っていたんだよ。」とお話があると、参加者(特に大人が)は大変驚いている様子でした。

参加者は、田に張ったロープに沿って一列に並び、目印に従い五〜六本ずつ苗を分け植えていきます。一列終わったら、ロープを動かし一斉に植えるため、遅れないように素早く作業をする必要があります。

田んぼの中は、表面が温かく奥の方はヒヤッとすると冷たく足を取られそうになります。その不思議な感覚に最初は慣れない様子だった子どもたちも、体験を進めるうちに徐々に慣れていき、最後まで立派に植えることができました。「大変だったけど楽しかった」「足がぬるぬるした」など嬉しい悲鳴をたくさん聞くことができました。



【みんなで一斉に！】